

タウンミーティング あったかいまち「ふじみ野」を目指して

日 時 平成27年2月22日（日）午後2時～午後3時40分
会 場 亀久保北町会（亀久保会館）
天 気 晴れ
参加者 15人



主な意見等

参加者 災害時、特に東日本大震災の際、大変苦労したのがガソリンの調達でした。緊急自動車や市役所の車がガソリンスタンドに並んでいたら、救急対応ができなくなるのではないのでしょうか。ガソリン等の備蓄の考えはありますか。

市 長 消防本部は地下タンクを設置しています。また、石油組合と緊急性の高い車両、消防、救急、市役所の福祉関連等を優先し、燃料が供給調達ができるよう協定を締結しています。

参加者 健康保険課から年に何回か受診記録の通知を受け取りますが、内容は相当日数が経過したもので分かりづらく、どうしても情報が遅れてしまうものであれば、削減できないのでしょうか。
また、エコパを快適に利用させて頂き、お礼を申し上げます。

市 長 送付するにも費用がかかるもので、情報が遅れてしまう原因や制度上で必要なものなのか等を確認し、ご意見は今後の参考にさせていただきます。

また、エコパは今年1月で利用延人数が10万人を超え、利用者からは足腰が改善したこと等を多く聞きます。今後は、維持管理等を考えると、利用料を少額でもみんなで負担しあうような制度を、考えていかなければならないとも感じております。

参加者 エコパのプールの中にパイプがあり、足の不自由な方はぶつかる危険性があると思います。今は子どもの浮き輪を取り付け対応されているようだが、まだ認識しづらく危険だと感じる。

市長 メリットやデメリットもあると思いますが、ご意見があったことは担当に伝え検討させていただきます。

参加者 地方の温泉にいくと、協定を結んでいる市等は割安になっている例が多いと思います。ふじみ野市も健康宣言しているのであれば、温泉施設との接点や対応ができないでしょうか。

市長 国民健康保険制度の保養施設等の利用補助は、全国的に縮小してきている状況にあります。しかし、市の考え方として、来年度の予算編成を行う際、いきいきクラブ（旧老人会）の加入者が減る中で、高齢者がふさぎこまず活発に活動し、活性化を図ることを狙いとして補助を増やしました。財政難の時代で補助金は削られていく中、一律に削減するのではなく、一つ一つの良さを引き出すことや、節約できるものは節約していく考え、例えば、効果を引きだして医療や介護が抑えられることは、プラス効果が得られると思います。お話のあった内容は現段階で即答はできませんが、よいことであるとは思いますが。

参加者 近隣に民間のスポーツクラブ等がありますが、例えば、市とタイアップして、高齢者等を対象に、平日等で格安に使えるよう業務提携を結ぶなどして、活用ができないでしょうか。

市長 平日の昼間が事業者様により比較的的空いている時間帯等、お互いのニーズが合い、行政とタイアップすることで有効に健康づくりが進められることであれば良いと感じます。貴重なご意見ありがとうございます。今後検討させていただきます。

参加者 近くの下水道の排水升に土が溜まった状態で、ゲリラ豪雨等があると心配です。

市長 このタウンミーティング終了後、住宅地図で場所を確認のうえ、対応させていただきます。

参加者 大井総合福祉センターの入浴施設について、昔から常連の利用者が仕切っている

ようで、たまに利用する人が利用しづらい状況です。また、他の施設ですが、明らかに不衛生な身なりをした人が利用しているのを見かけました。

市 長 モラル部分のこともありますが、担当にご意見があったことを伝えます。

参加者 施設の減免申請の説明会があり、1年に1回の申請でよかったものが、今年から制度が変わり、毎月、3カ月やその都度ごとの申請に変更するという説明があり、大井中央公民館でもめていたようですが。

市 長 教育委員会の所管ですが、減免団体として一度登録されていれば大きな変更がない限り、手間や手続きの簡素化を考えると、1年に1度の申請でも良いと感じますので、担当へ確認します。

今も話に関連しますが、今後は減免制度のあり方を考えないといけないと思います。話のあった大井中央公民館、分館、エコパ、道路、公園、図書館等の施設は市民の財産で、施設の管理を委ねられているのが市役所です。市は貴重な税金を、少しでもコストを抑え、医療、介護、教育等に費用がかかる中、どのように有効に使っていくかが大切なことだと考えています。本来、公民館の利用は、もともと有料ですが、社会教育活動等に対しては税金を充てて使用料を免除し減免として措置しているものです。これからの時代は、全体で少額でも負担をしていく考えも必要であり、ふじみ野市に限らず全国的な問題でもあると考えます。

また、手続きの簡素化等は考えなければいけません。施設維持のあり方について公民館利用者の方々にも理解をして頂かなければならないと思います。

今後は、人口減少や少子高齢化時代に入り、高齢者は元気で長生きすることが一番ですが、私が高齢者になる頃には、支える側に大きな負担を強いることが想定されており深刻な問題です。

本市においても、他市では学校の耐震補強が取り組んでいないところが数多くある中、安全面を最優先に考えて市内全小中学校の耐震補強を実施し、完了したところ。そして次の対策として、トイレ等の老朽化対策をしようとしたところ、国は耐震改修が終わっていない市町があることから、大規模改修費用の補助金を打切り、耐震改修に補助しようとしています。それでは、早期から一生懸命に安全対策へ取り組んできた本市が浮かばれません。そもそも、ふじみ野市民も国や県に税金を収めているのに不条理ということで、市として訴えてきました。また、他の事業についても、県や国へ出向くなどして訴えたことで、予算を守ることができたということがあります。このように常に国の動行等を注視し、意見を述べず黙ったまましていると、億単位で費用が変わってしまい、市にとって不公平なことが起きてしまうことがあります。

参加者 保育所の廃止問題、著名活動をしていたことについて教えてください。

市長 昨年9月に亀居、西保育所の廃止の条例は、議会で可決を頂いているところですが、それに対し、市民の直接請求ということで、有権者の50分の1約1,800名以上の署名を添えた提出があり、3月議会で審議されることとなります。

そもそも、この問題は耐震診断で、通常の基準が延べ床面積500㎡以上の2階建て建物という基準がある中、市では基準に満たない全保育所の耐震診断をしたところ、亀居、西、亀久保、鶴ヶ岡保育所が基準を満たしておらず、特に亀居、西保育所については、高い数値結果がでたということです。

これを耐震補強で対応できないか検討したところ、新規に建築したほうが安いというほど高額になることがわかりました。また、亀居、亀久保、鶴ヶ岡保育所は地主さんに建物を建築して頂いており、高い賃料が発生している状態です。

ふじみ野市は現在、公立保育所を建設する計画はありません。それはこれまで国は公立保育所に対して、整備費や運営費の補助金をだしていましたが、現在は公立保育所に対する補助がなくなり、社会福祉法人や民間に対しては補助がある状況だからです。仮に、新規に整備費として3億円支出するところ、民間の場合、国、県、市が補助し、市は民間に補助する持出し分が5千万円程度で保育所が出来てしまいます。さらに、運営費も公立保育所1人の子どもの持出し分の費用が年間約140万円かかるころ、民間保育所ですと1人当たりの持出し分が40万円程度になり、子ども1人の所、3人預けられる計算になります。

今年4月に民間保育所3施設の開所を予定しています。この3施設で283名の受け入れが可能になります。しかし、保育所の厳しい耐震診断結果を受け、万が一災害が起き、0歳児の保育士配置基準が3対1の中、当然0歳児は自力で逃げることができませんから、1人の保育士が0歳児3人を抱えて逃げなければいけないということです。我々は子ども達の命を守る責任があり、どんなに反発を受けても、安全な施設を第一に、西及び亀居保育所を廃止して、子ども達は新しい3施設に移って頂く決断をしました。それでも103名の増員が図れます。

今後、鶴ヶ岡及び亀久保保育所についても、危険性があるので早急に対応する必要があります。来年には民間保育所4施設を整備する予定です。

参加者 今、市長が言ったことが、周囲に認識されていないと思います。周囲はただ単に保育所を潰すんだということで、市の意図がわかってないと思います。

市長 市民の方に的確な情報が伝わっていないところがあり、市の情報発信不足であると感じております。

参加者 マンションに住んでおり、長期積立金等がありますが、資金運用として市に貸付

け、利回りを考慮して運用してみてもどうでしょうか。

市長 ふじみ野市も一定の積み立てをしており、また公共施設整備基金等を取り崩して運用しております。市民の方からの貴重な税金なので安全な範囲内において運用をしており、今は金利が安い等、課題もあると思いますが、お話のあった運用方法や市民公募債のようなものも一つの方策かと思えます。

参加者 分館のあり方についてはどう考えていますか。

市長 これからの分館のあり方を市民の皆様と一緒に考えていかなければなりません。公共施設は見てわかる分館のような施設や、道路に埋設されている下水道管、特に老朽化している水道管については年間2億円程度しか入替作業が進まない状況です。これ以上のことを進めていく余力がない状態ということです。

分館は公民館活動だけではなく集会施設としても活用をしています。合併前の旧上福岡地域は、土地は市で提供し、町会ごとに自分達でお金を工面して集会施設を建設し、維持管理まで全て町会で行っていました。一方、旧大井地域は、町で設置及び管理していました。現在も隣の三芳町では集会施設として自治体が全て行っております。ただそれが、いつまで続けられるのか、例えば、旧大井町地域も皆さんに管理を委ね、少額でも利用料を徴収して修繕の積み立てや維持管理費に充てていく等、自助努力でお願いする方法があります。逆に、町会加入率も年々下がってきている中、維持しきれないこともあるかもしれませんので、旧上福岡地域を全て公費持ちにすることも一つの方法かもしれません。様々な要因があり、どちらかに決めるのではなく、維持するあり方を考えなければいけない時期にきていると思います。旧大井町時代の分館としての政策は、補助金や周辺に風俗施設等が規制され安心できる施設等、様々なメリットがあるなかで進めてきたと思います。しかし、時代に即し、これからのあり方をどうするのか、皆さんで考えていくことが必要だと思います。市民コミュニティが一番身近な部分ですから、急がずに皆さんで考え、ふじみ野市が持続可能なまちになれば良いと感じております。

参加者 公民館のある場所は、学校と同じような教育の場としての意味があり、本当は潰してほしくないと思っています。

市長 今のお話のようにいろんなご意見があると思います。ですので、あり方と維持管理の方法をあわせてメリットを残していくようにしていきたいと思っています。例えば公民館の分館として残していくのであれば、分館だけ維持管理費として、各集会施設の利用として協力金を集めるなど、方法はこれから考えていけばよいと考えて

おります。